

昭和53年度 和歌山県名匠

ひょう ぐ し 【表具師】

ひ の じょう
日 野 常

【現住所】那智勝浦町

【生 年】明治26年

職 歴

13才で大阪市西区北堀江 きん やす 近安表具店に弟子入り。築山利 つき やま り
き まつ 喜松氏に師事したが大正2年独立、那智勝浦町で開業。

業績の概要

表具は大別して「襖」と「表装」とがある。襖は、現在息子にまかせ表装を手がけられている。

これまでの代表的な仕事としては、昭和30年那智大社社務所、大和天理教の本殿、地元の寺社などの襖を修復したほか、軸物では野呂介石 たに ぶんちよう、谷文晁 らい さん よう、頼山陽、富岡鉄斎、池田桂仙 けい せん、姫島竹外 ちよくにゆう、田能村直入、渡瀬凌雲ほかの表装をてがけられている。

現在長男があとを継いでいるのでミニ般若心経の書写、表装を趣味とし2万号を突破、これが主な日課となっている。